書の至宝
Twin Peaks The Finest of Chinese and Japanese Calligraphy
日本と中国

各　位

関連記事掲載・番組での紹介のお願い

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

同封の報道資料でご案内申し上げますとおり、2006年1月11日(水)から2月19日(日)まで、東京国立博物館(台東区上野公園)におきまして特別展「書の至宝－日本と中国」を開催いたします。

本展覧会では、日本と中国の書の名宝約190点を展示。日中両国の書の歴史を総覧し、さまざまな時代と文化を背景に生み出された筆墨の美を堪能していただきます。空海、小野道風(おのの とうふう)、藤原行成(ふじわらのこうぜい)、本阿弥光悦など、日本の書の歴史に欠かせない名品と、王羲之(おう ぎし)、欧陽詢(おうようじゅん)、蘇軾(そしょく)など、中国書道史に名を残す能書(のうしょ)の作品が時空を超えて邂逅する大書法展となります。

つきましては、貴媒体にて本展の案内や内容紹介、招待券の読者・視聴者プレゼント等、御協力くださいますようお願い申し上げます。

お手数をおかけいたしますが、同封のアンケート用紙にご記入の上、ファクスにてご返送いただければ幸いです。

その他、ご不明な点や資料等のご要望がございましたら、下記までお問合せください。

敬具

報道関係問い合わせ
「書の至宝」展広報事務局(㈱ウインダム内)
TEL. 03－3639－0725　FAX. 03－3664－3833
〒103-0014　東京都中央区日本橋蛎殻町1－28－9ヤマナシビル4F

書の至宝
Twin Peaks The Finest of Chinese and Japanese Calligraphy
日本と中国

「書の至宝－日本と中国」の見どころ

王羲之、欧陽詢、蘇軾、空海、小野道風、本阿弥光悦、良寛――

名筆、時空を超えて一堂に。

書は東洋における最も美しい芸術の一つとして知られています。古代中国に発祥した漢字は、文字本来の機能が追求される一方、常に美的な側面からもとらえられてきました。王羲之らによってその芸術性が高められた書は、王朝の交代や民族の興亡を越えて延々と受け継がれ、幅広い書の表現を可能にしてきたのです。

日本の書は、漢字の伝来以来、中国の影響を色濃く受けるものでしたが、唐王朝が衰微してその影響が薄れると、いわゆる和様の書が全盛を迎えます。また、工夫しながら漢字を用いて日本語を表記した結果、わが国独自の仮名が形成され、次第に繊細で優美な仮名の世界が展開されることとなりました。その後、さまざまな書流が次々と生まれます。一方、禅や儒学の興隆により再びもたらされた中国書法の大きな影響も見逃すことはできません。

本展は、中国における書の歴史をたどるとともに、その影響を受けながら独自の世界を築いてきた日本の書の展開を、両国の書の名品をそろえて鑑賞しようとするものです。わが国には、中国本土でも稀少な宋・元の書跡を含む、優れた日中の書跡が多数伝存しています。このたびは、「秋萩帖」「白氏詩巻」などの名品、約50点の国宝・重要文化財に加え、上海博物館の全面的な協力を得て、「淳化閣帖」最善本や王献之の「鴨頭丸帖」など同館の優品が多数出陳されます。本展を通して、日本と中国における書の歴史を振り返り、さまざまな文化や思想を背景として形成された美しい書の世界に迫ります。

開催概要

展覧会名　特別展「書の至宝－日本と中国」
会　　期　2006年1月11日（水）～2月19日（日）／35日間
会　　場　東京国立博物館・平成館（東京都台東区上野公園13-9）
開館時間　9時30分～17時（入館は閉館の30分前まで）
休 館 日　月曜日
観 覧 料　一般1400円(1200／1100円)　大学生1000円（900／800円）
　　高校生900円（800／700円）　中学生以下無料
　　＊（　）内は前売り／20名以上の団体料金
　　＊障害者とその介護者一名は無料。入館の際に障害者手帳などをご提示ください。
　　＊前売り券はJR東日本みどりの窓口、びゅうプラザ、チケットぴあなどで11月11日より販売開始。
主　　催　東京国立博物館　朝日新聞社　テレビ朝日　上海博物館
後　　援　外務省　文化庁　中国大使館　神奈川県教育委員会　埼玉県教育委員会
　　千葉県教育委員会　台東区教育委員会
協　　賛　大日本印刷株式会社　松下電器産業株式会社
協　　力　全日空
お問い合わせ(一般)　03-5777-8600（ハローダイヤル）ホームページhttp://www.asahi.com/sho/

関連企画

記念講演会「中国書法の受容と和様の成立」2006年1月21日(土) 13時30分～15時 平成館大講堂
講　師：東京国立博物館　展示課長　島谷弘幸

広報に関するご注意

- 掲載記事、番組内容について、日時・会場・電話番号などの基本情報確認のため、ゲラ刷り、原稿の段階で広報事務局までファクスでお送りください。
- 写真使用後はすみやかにご返却ください。
- お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体等を広報事務局までお送り下さい。

「書の至宝」展広報事務局（㈱ウインダム内）
TEL. 03－3639－0725　FAX. 03－3664－3833
〒103-0014　東京都中央区日本橋蛎殻町1－28－9ヤマナシビル4F

主な展示予定作品　－日本の書－

＊印の作品については、会期中一部期間のみの展示となります。展示期間の詳細は改めてお問い合わせください。

国宝　風信帖（ふうしんじょう）　空海筆

平安時代　9世紀　紙本墨書　教王護国寺蔵

空海（弘法大師）から最澄に宛てた手紙３通を１巻に仕立てたもの。第１通目の書き出しが「風信雲書」であることから、この名前で呼ばれています。空海が大同元年（806）に帰国してからしばらく経た弘仁3年～4年（812～813）のころの手紙と考えられ、一緒に入唐し日本の真言・天台の祖となった空海と最澄の交流を物語るものとして貴重です。三筆の1人として能書で名高い空海の遺品の中で、最も著名なものです。伝統的な王羲之書法や顔真卿の書法を手中にしたもので、豊潤で重厚、濶達自在と変化に富んだ多様な書法を展開しており、書道史・仏教史の上でも注目される遺品です。

この作品は、所蔵者の意向によりウェブサイトへの写真掲載ができませんので、当リリース(PDF版)では写真を割愛させていただいております。印刷媒体の方へは、掲載用写真を用意しております。詳しくは広報事務局までお問合せください。

貸し出し写真 1
（webは掲載不可）

国宝　白氏詩巻（はくしかん）　藤原行成筆（ふじわらのこうぜい）＊

平安時代　11世紀　彩箋墨書　東京国立博物館蔵

平安時代の宮廷貴族は、教養として漢詩や和歌の素養、文字を巧みに書くことなどが求められていました。漢詩の中でも、とりわけ唐の詩人・白居易の詩集『白氏文集』が大いにもてはやされました。この「白氏詩巻」は、その白詩愛好を受けて美しい染紙の料紙に書写したもので、三跡の１人として知られる藤原行成47歳の自筆です。行成は当時盛行していた小野道風の書法の影響を受け、明るく瀟洒で優美な和様の書法を完成させました。

貸し出し写真 2

国宝　古今和歌集（こきんわかしゅう）（元永本（げんえいぼん））

平安時代　12世紀　彩箋墨書　東京国立博物館蔵（三井高大氏寄贈）

『古今和歌集』の仮名序および20巻すべてを完存する現存最古の写本。上下2帖の、紐でつづった綴葉（てっちょうそう）装仕立になる冊子本で、原装のまま伝存してきました。上巻の末尾の奥書の年号にちなんで、元永本の名で呼ばれます。紫・赤・緑・黄・茶・白など様々な色の紙に、唐草・菱文様・亀甲・七宝（しっぽう）などの型文様を刷り出した華麗な和製の唐紙（からかみ）を用いています。変化に富んだ書風や散らしの妙はその筆者の能書ぶりを十二分に発揮したものです。筆者は、藤原行成の曾孫・定実の筆と推定されます。

貸し出し写真 3

主な展示予定作品　－日本の書－

＊印の作品については、会期中一部期間のみの展示となります。展示期間の詳細は改めてお問い合わせください。

重要文化財　梅渓二大字（ばいけいにだいじ）　大燈国師（だいとうこくし）筆

鎌倉時代　14世紀　紙本墨書　五島美術館蔵

大燈国師（宗峰妙超（しゅうほうみょうちょう））は鎌倉時代後期の臨済宗の高僧。大徳寺の開山として著名で、花園・後醍醐天皇はじめ多くの人々の帰依を受けました。彼の書は、中国宋時代の黄山谷（こうざんこく）などの影響を受けた雄渾で堂々とした筆致が特徴で、わが国の禅林墨跡の中で最も高い評価を得ています。この１幅は一休宗純開山になる田辺の酬恩庵に伝来していたものを、前田利常が毎年100石の寄進を約束して入手したものです。

貸し出し写真 4

摺下絵和歌巻（すりしたえわかかん）　本阿弥光悦（ほんあみこうえつ）筆＊

安土桃山時代　17世紀　彩箋墨書　東京国立博物館蔵

竹・梅・芍薬（しゃくやく）・蝶・蔦・藤などの版木（はんぎ）を金泥・銀泥で摺り出した料紙に、『古今和歌集』巻13に所収される和歌を書いたもの。美しい料紙に、流麗で躍動的な筆致で和歌が散らし書きされたもので、料紙と書と文学が織り成す美しさが魅力です。本阿弥光悦は刀剣の鑑定や研（と）ぎを家職とする富裕な町衆本阿弥家に生まれ、近衛信尹（このえのぶただ）、松花堂昭乗（しょうかどうしょうじょう）とともに“寛永の三筆”の1人として著名です。

貸し出し写真 5

主な展示予定作品　ー中国の書ー

＊印の作品については、会期中一部期間のみの展示となります。展示期間の詳細は改めてお問い合わせください。

石鼓文（先鋒本）＊

原石：戦国時代　前５～４世紀　紙本墨拓　三井記念美術館蔵

石鼓文（中権本）＊

原石：戦国時代　前５～４世紀　紙本墨拓　三井記念美術館蔵

石鼓文（後勁本）＊

原石：戦国時代　前５～４世紀　紙本墨拓　三井記念美術館蔵

天子が地方に狩りに出たときの情景を、四言を基本とした韻文に詠ったもの。太鼓に似た花崗岩質の10個の石に刻してあるので、この名があります。この石鼓文は、唐時代の韋応物や韓愈、あるいは宋時代の蘇軾らによって詩にも詠じられ、広く世に知られてきました。その書体は、篆書の母体と考えられている籀文、大篆で書かれており、製作年代は統一以前の（戦国時代の）秦とする説が有力。発見当初、その中の１つを農民が上部を削り取って臼として使用していました。

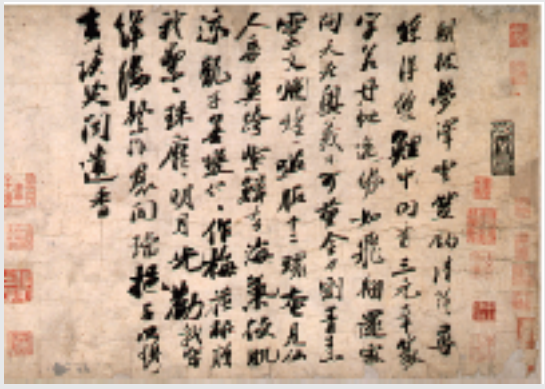
明時代の大収蔵家である安国は、10種もの石鼓の旧拓本を入手し、自ら十鼓斎と称するほどでした。中でも、特に優れた北宋拓の３本を、軍兵の三陣になぞらえて先鋒本・中権本・後勁本と名づけ秘蔵していました。先鋒本は上下２冊からなり、毎葉２行、１行３字、480字を存しています。中権本は毎葉３行、１行５字、字数は497字にのぼります。後勁本は毎葉３行、１行４字、491文字を収録しています。これら３種は、現在知られている石鼓の拓本の中で、最も著名なものです。

石鼓文（先鋒本）貸し出し写真６

重要文化財　行書李白仙詩巻　蘇軾筆＊

北宋時代　元祐８年（1093）　紙本墨書　大阪市立美術館蔵

日本に現存する唯一の蘇軾（蘇東坡）の真跡。蘇軾は宋の四大家としてその能書を称えられますが、それ以上に文学者として広く知られ、根強い詩文の愛好者が存在します。この作品は、元祐８年７月、蘇軾が汴京において道士の姚丹元から李白の作と称する詩二首を授かり、盧雁文様を摺り出した料紙に行書で揮毫したもの。宋時代には、本作に見られるように、見事な摺り出し文様の料紙を用いることが少なくありませんでした。北宋を滅ぼした金では、蘇軾の書が愛好されました。その状況を示すように、巻後には金人五家の題跋が記され、金における蘇軾の書の影響ぶりを見ることができます。



貸し出し写真７

主な展示予定作品　－中国の書－

～上海博物館から来日予定の作品～

鴨頭丸帖（おうとうがんじょう）　王献之筆（おうけんし）

晋時代　4世紀　絹本墨書　上海博物館蔵

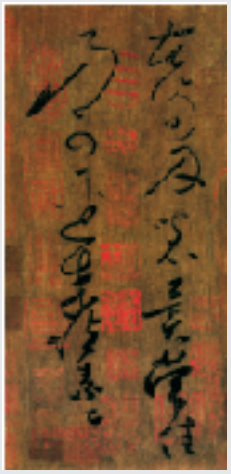
王献之は、王羲之の第7子。中国書法史では、父の王羲之を大王、王献之を小王と呼び、あわせて二王と総称しています。王献之の自筆の書（真跡）は、王羲之の場合と同様に現存しないものの、鴨頭丸帖は宋の宮中に旧蔵されていた由緒あるもので、原本の姿を正確に伝えると考えられる墨跡本です。王献之の代表作として広く知られ、元時代の虞集（くしゅう）をはじめ、歴代のそうそうたる名家の跋（ばつ）（作品をほめ讃える書付）が書き込まれています。

貸し出し写真 8

苦筍帖（くじゅんじょう）　懐素筆（かいそ）

唐時代　8世紀　絹本墨書　上海博物館蔵

懐素は、唐時代に能書を謳（うた）われた僧。酒を愛し、興に乗ると絶叫して壁一面に書きまくったというように、奔放な草書に長じ、世に草聖と尊ばれました。また自然の変化に書の奥義を悟った等、数々のエピソードが残されています。「めずらしく佳い筍（たけのこ）と茶があるから、すぐにでも来られたし」というわずか2行の書簡ですが、現存する懐素の唯一の真跡と考えられています。本紙はもちろん、その前後に歴代の皇帝を始めとする収蔵印や跋文がかまびすしく、従来いかに重要視されてきたかが見て取れます。



貸し出し写真 9

特別展「書の至宝－日本と中国」には、世界有数の書のコレクションを誇る中国・上海博物館から65件の名品が出品されます。米国から買い戻したことが話題となった「淳化閣帖」をはじめ、中国国外に出ることが稀な唐、宋、元の作品は見逃すことができません。東京での「書の至宝」展閉幕後には、東京で展示された日本国内に所蔵されている日本と中国の書65件が海を渡り、上海博物館からの65件とともに、同館でも展覧することが予定されています。

「中日書法名品展（仮称）」　2006年3月11日～4月23日　於：上海博物館

速報

古くから皇室に伝わり、現在も宮内庁で管理される名品14件の出品が決まりました。聖徳太子をはじめとする日本の書12件と王羲之など中国の書2件。うち日本の書1件と中国の書2件は、上海博物館での展覧会にも出品されます。王羲之の「喪乱帖」は奈良時代に唐からもたらされて以来、千数百年ぶりの里帰りとなります。

ー日本の書ー

法華義疏　聖徳太子筆　4巻のうち巻2、巻4

飛鳥時代　7世紀　紙本墨書　御物

法華義疏（巻4）貸し出し写真 10

聖徳太子の著した、『法華経』の注釈書。全4巻で、その巻第1に「此れは是、大委国上宮の王の私の集なり。海の彼の本に非ず」と奈良時代の書写と推定される添え書きがあること、本文中に推敲や訂正の跡が見られることから、太子の自筆本と考えられています。中国の六朝期（4世紀）の書法を思わせるような背の低い字形で、リズミカルでよく穂先が効いた筆致です。わが国最古の肉筆遺品としても貴重です。

＊会期中一部期間のみの展示となります。展示期間の詳細は改めてお問い合わせください。

ー中国の書ー

喪乱帖　王羲之筆

唐時代　７世紀　紙本墨書　宮内庁三の丸尚蔵館蔵

この作品は、所蔵者の意向によりウェブサイトへの写真掲載ができませんので、当リリース(PDF版)では写真を割愛させていただいております。
印刷媒体の方へは、掲載用写真を用意しております。詳しくは広報事務局までお問合せください。

貸し出し写真 11
（webは掲載不可）

王羲之の没後、その書は歴代の皇帝に愛好され、国家的な規模で収集されていきました。特に唐時代の太宗皇帝は王羲之の書を大変愛し、宮中に収蔵される王羲之の書を、能書の臣下に整理・鑑定させました。宮中には王羲之の書の複製を作る部署を設けて、双鈎塡墨という技法を用いて、きわめて精巧な複製を作らせました。現存する双鈎塡墨本は数例しかありませんが、本幅はその中でも最も著名な作例で、原本のカスレや虫食いまでをも写し取っています。

＊会期中一部期間のみの展示となります。展示期間の詳細は改めてお問い合わせください。

書を楽しむために

書にはさまざまな要素があります。書かれた内容、筆跡の巧拙、あるいはその作品がもつ伝来の意義など、どれをとっても実に魅力的です。

ところが、崩してある文字が読めない、書かれている漢詩や文章が理解できない、といった理由から、書の作品を敬遠する人もいるようです。文字を読解すること、あるいは漢詩や文章を正しく解釈することだけが、書の理解や鑑賞ではありません。

書には、文字の造形、筆の運び、文字の配置などの空間構成や余白などの美しさがあります。さらに、書写するのに用いられた料紙や墨の色などの素材の魅力もあります。さらに、字形や文字を続けて書く連綿（れんめん）の美しさ、にじみやかすれ、筆力の強さなどを見ていると、思わず惹きこまれていきます。さらに、書の特徴の１つとして、筆順を追うことによって、書いた人の美意識をも追体験できるのです。書のすべてがわからないと書を見ることができないのではなく、その要素の１つだけでも十二分に書を味わうことができます。

今日に伝えられてきた書は、信仰・文学・教育・生活などにより大切に伝えられたものです。1000年前の、あるいは紀元前の書が今日に残る奇跡を、いま目に出来る幸せを実感してみてはいかがでしょう。書は、時代を超えて鑑賞されます。個人個人の書は筆者が活躍していた時代と密接な関係があり、筆者が生きた時代の特徴や雰囲気の違いがはっきりと現れます。また、日本の書には、叙情性・軽妙洒脱・直感的で表現が先であるという特徴があり、中国の書には構築性・重厚で論理的な強さがあります。じっくり鑑賞すれば、この微妙な違いも判ります。

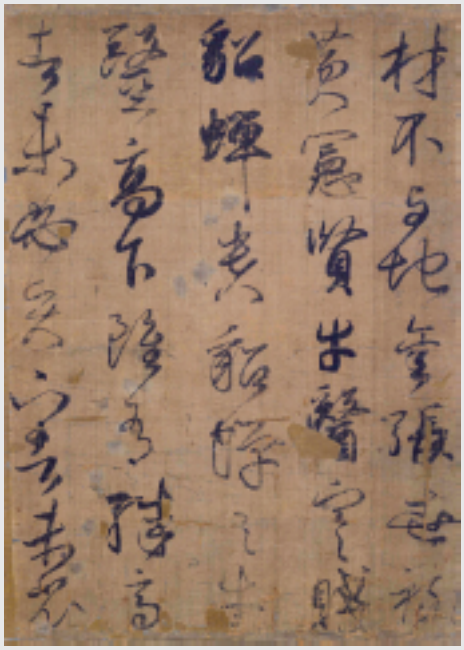
書には上手、下手という評価もありますが、何より品格が大切です。格調と個性が書の持つ魅力です。まさに「書は人なり」で、歴史に名をのこす人の書は、その人物を如実に物語っています。筆意をたどりながらそれぞれの作品をゆっくりと眺め、筆者の生き様、美意識を偲びながら鑑賞してください。

三筆・三跡

独自の文字をもたなかった日本の書は、漢字が中国から渡って以来、たえず中国書法の影響を受けながら展開していくことになります。最も重大なものは“書聖”と呼ばれる王羲之の書法で、日本においても書の美の規範となっていきます。これは、平安時代初期の嵯峨天皇、弘法大師空海、橘逸勢の“三筆”の時代にも及びました。なかでも空海は、王羲之に加えて唐時代の能書顔真卿らの書法を基盤としながら、たぐいまれな才能を開花させていきます。「風信帖」でも、重厚でありながら、瀟洒で闊達な面も見せるという多様な表現力を展開させています。この“三筆”の名称はあまりにも有名ですが、この3人を“三筆”と呼ぶのは江戸時代になってからのことです。古くは、“三聖”として弘法大師空海、天神（菅原道真）、そして小野道風が3人の能書としてたたえられていました。

続いて、平安時代中期には、小野道風・藤原佐理・藤原行成の“三跡”が登場しますが、寛平6年（894）の遣唐使の廃止、さらに延喜5年（905）の『古今和歌集』の撰進など、わが国独自の和様化への動きが加速していった時期でした。小野道風は、和様の開祖として尊重され、“羲之の再生”とまでいわれた不世出の能書で、羲之の書を根底としながらも、さらに豊麗で雄渾な書風を樹立しました。「三体白氏詩巻」に見られるように、文字の構造自体は王羲之、しかしその筆致は柔和な和様という独自の書を展開しています。道風の生存中において、すでにその書を持たない人は恥ずかしい思いをしたというほど人々に愛好されました。この書をうけて、佐理はさらに独自の奔放闊達な行草体に発展させ、行成に至り、和様の書は完成を見ることになります。藤原行成は、道風書法全盛の時代に、彼の書を手本として育ちました。その追慕の思いは成人してからも続き、自らの日記に、夢で道風にあって、書法を授けてとらせよう、と言われたことを記しています。王羲之書法、道風書法を受け継ぎながらも、「白氏詩巻」などでは自らの瀟洒な書を確立しています。本展では、三筆、三跡ともにそろってその作品が出品される予定です。

絹地切　小野道風筆
平安時代　10世紀　本間美術館蔵
（一部期間のみの展示となります。
詳しい展示期間については、改めてお問い合わせ下さい）

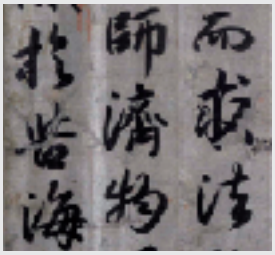


書の頂点－王羲之

王羲之の書は日本でもたいへん重んじられてきました。それを物語る事例として、『万葉集』における戯訓があります。本来は助動詞の「てし」を使うべきところで「大王」「義之」を用いています。これは字の上手な人で師範とすべき人の意味である「手師」からの連想で、「大王」、「義之」(羲之の誤り)はともに王羲之のことをさし、「手師」イコール王羲之という認識が定着していたことを物語っています。

小野道風の書が王羲之を手本としたことは、互いの遺墨の比較をしてみると明らかです。すでに指摘されていることですが、道風の「智証大師諡号勅書」にある「濟」という文字は王羲之の没後に羲之の文字を集めて手本とした「集字聖教序」にある文字にとてもよく似ています。この「濟」は、「集字聖教序」を作る際に見つからず、“さんずい”と「齊」を結合させた結果、“さんずい”が大きくなり、多少バランスの悪い文字になったものです。これを学んだ道風が「濟」を“さんずい”が大きいまま手中にしていたことを示すものとして興味深い例です。道風はこのように、堅実な字体の構築美を王羲之書法より受け継ぎ、柔軟で豊潤な筆致を独自のものとして発展させたのです。

参考
国宝　円珍贈法印大和尚位並智証大師諡号勅書(部分)　小野道風筆
平安時代　10世紀　東京国立博物館蔵



参考
集王聖教序(宋拓)(部分)
唐時代　東京国立博物館蔵

このほか多くの能書が王羲之を学んでいます。それぞれが王羲之を自らの解釈で吸収し、自らの美意識を加えた書法を展開しています。書は、絵画や彫刻などの芸術分野と異なり、自然を手本とすることができません。おのずと古典と呼ばれる作品を手本とすることになります。その頂点にあるのが王羲之ということがいえます。

余談ですが、みなさんは東京国立博物館に何度も来館されていると思います。平成館の入り口近くにある「平成館」の文字、そして入り口を入って右手にある「定礎」の文字をご覧になっていますか。いずれも集字で、「平成館」は東京国立博物館所蔵の「元暦校本万葉集」から、そして「定礎」の文字は奈良国立博物館所蔵の「紫紙金字金光明最勝王経」からのものです。「礎」は、「集字聖教序」の「濟」と同じように見つけることができなかったため、“石へん”と「楚」を合わせて一文字にしています。文字を集めるのに用いた作品は、いずれも今回の展覧会に出品されます。

国宝　元暦校本万葉集(部分)
平安時代　11世紀　東京国立博物館蔵

国宝　紫紙金字金光明最勝王経(部分)
奈良時代　8世紀　奈良国立博物館蔵

究極の複製ー双鈎塡墨

王羲之の没後、その書は歴代の皇帝に愛好されました。南朝の宋・斉・梁の各王朝においては、すでに王羲之の書が盛んに鑑賞され、その収集・整理が国家的な規模で繰り返されました。唐の時代になると、太宗皇帝がことのほか王羲之の書を愛し、勅命を出して天下の王羲之の書を収集させ、能書の臣下に命じてこれを鑑定・整理させました。能書として唐の三大家に挙げられる欧陽詢・虞世南・褚遂良に、王羲之の蘭亭序を臨書させた話は特に有名です。

一方、宮中には名跡の複製を作成する部署を設け、王羲之らの書の複製作りを専業とする搨書人を置きました。その複製の方法は、「双鈎塡墨」という技法を用いるもので、硬黄紙と呼ばれる透明ないしは半透明に近い紙で原跡の上を覆い、文字の輪郭を写しとります。この籠字をとる工程を「双鈎」といいます。次に、その籠字の中を、原跡のにじみやカスレ、虫食いまで、細大漏らさず忠実に墨を塡めていきます。この工程を「塡墨」といい、双鈎塡墨によって作られたものは、きわめて精巧な複製品ということができます。王羲之の書が絶無と考えられる現在、双鈎塡墨による複製品は、王羲之の書の本来の姿を類推する上で、最も信憑性の高い一等資料となるのです。

しかし、現存する王羲之の双鈎塡墨の作例はわずか8～9例に過ぎません。なかでも、日本に伝存する「喪乱帖」（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）「孔侍中帖」（前田育徳会蔵）「妹至帖」（個人蔵）は、中国にも類例の残されていない、ひときわ精度の高い作品として知られています。「喪乱帖」と「孔侍中帖」には、本紙の継ぎ目に桓武天皇の「延歴（暦）勅定」の印が押されており、奈良時代に唐より舶載されたものであることが分かります。「妹至帖」も、「喪乱帖」「孔侍中帖」と同様の紙質・技法を用いていることから、これも奈良時代に舶載された双鈎塡墨の1つと考えられています。聖武天皇が崩御されたのち、光明皇后がその遺愛の品々を東大寺に献納した際の目録『東大寺献物帳』には、王羲之の書法20巻が記録されており、当時遣唐使らによって貴重な王羲之の双鈎塡墨が日本にもたらされたと考えられます。

本展では、これら重要な双鈎塡墨の作例３件が出品される予定です。

手本のなかの手本　淳化閣帖（じゅんかかくじょう）

「淳化閣帖」は、宋の太宗皇帝が臣下の王著に命じて、内府に収蔵される歴代の名跡を編集させ、法帖（ほうじょう）（手本・観賞用の折本）として刊行せしめたものです。勅撰になる最古の集帖（複数の書人の書跡をまとめた法帖）であり、法帖の歴史の上でも（単一の書人の書跡をまとめた単帖を含めても）、最も古い例とされています（記録には「淳化閣帖」以前の単帖の記録があるが、現物は存在しません）。が、刊行後まもなく宋の内府が火災に遭い、「淳化閣帖」の原石も損傷を受けました。そのため原本に基づいたさまざまな翻刻本が作られていきました。現在知られる「淳化閣帖」の多くは、明時代以降に翻刻されたものがほとんどで、宋時代の拓本（宋拓）はきわめて少なく、宋拓と言うだけで相当に珍重されます。この「淳化閣帖」は、数少ない宋拓の中でも、その刊行年代が北宋と確定できる貴重なものです。2003年に上海博物館が、アメリカの著名なコレクターから高額で購入し、「淳化閣帖」の祖本（初版本）であると発表して、「淳化閣帖」のための特別展を開催、あわせて「淳化閣帖」とその周辺に関する国際学会を併催し、一大センセーションを巻き起こしました。

この「淳化閣帖」は、全10巻のうち、第4・6・7・8巻。うち、第6巻は別系統に属し、この本に基づいて、いわゆる泉州本と呼ばれる「淳化閣帖」が翻刻されていきました。残る第4・7・8が祖本に相当するとされています。各巻の内容は、4が歴代の名臣の書、6・7・8が王羲之の書を収録しています。もとより、王羲之の真跡が存在しない現在、王羲之の書の本来の姿をうかがうには、「喪乱帖（そうらんじょう）」などの双鈎塡墨本（そうこうてんぼくぼん）が最も信憑性が高いのですが、これらの双鈎塡墨本はきわめて特殊で稀な作例です。従って、通常は法帖に刻される王羲之の書跡からその姿を偲びつつ、これを学ぶことが、王羲之の書法を継承する唯一の学習方法でした。実際、「淳化閣帖」をはじめとする法帖を学ぶ学習方法は、宋時代以降、元・明・清時代と千年以上も受け継がれ、中国歴代の書の大家は、この学習方法を基礎として自らの書風を創り上げてきました。法帖は、中国書法史上における最も基礎的な「教科書」であり、淳化閣帖はその中の代表格としていつの世においても珍重されてきたのです。

淳化閣帖（部分）　4冊
宋時代　淳化3年（992）　上海博物館蔵

料紙にみる日中友好

奈良時代、書写の用紙としては麻紙や楮紙が多く用いられましたが、平安時代になると麻紙は次第に用いられなくなりました。平安時代の古筆と言えば、まず金や銀の砂子を撒き、金箔や銀箔を正方形や三角形・菱形・短冊形に切った切箔や、糸のように細く長く切った野毛を置き、金泥・銀泥・顔料で下絵や文様を描いた、華麗な装飾の施された料紙が連想されます。実のところ、この時代の料紙としては、まず宋から舶載された料紙が広く使用され、やがてわが国でもいわゆる唐紙が模造されるようになり、次第にわが国独特の料紙装飾技術が培われていったと考えられています。「蓮華唐草」「菊唐草」「重ね唐草」「小唐草」「亀甲」「七宝つなぎ」「波濤文」など、唐紙の文様にはさまざまなものがあり、中国から舶載された唐紙を用いたと考えられる名筆も少なくありません。しかし、中国の宋時代の書跡について見ると、従来は日本に舶載されたであろう唐紙を用いた中国書跡の報告が全くありませんでした。平安時代の古筆が、多くは宋から舶載された唐紙を用いたと言いながら、それを傍証する本場中国での遺例が報告されず、長い間、隔靴掻痒の感を残していたのです。

そうした状況のもとで、1993年、上海博物館に収蔵される沈遼の「動止帖」が日本に紹介されました。沈遼は、銭塘（浙江省杭州）の人。官途を歩み、王安石の知遇を受けましたが、王安石が国政を執るに及んで、その意に逆らい、官を奪われ永州（湖南省）に左遷されてしまいました。のち、池州（安徽省）に移り、その地で隠遁生活を送りました。文章詩歌に秀で、蘇軾・黄庭堅らと詩文の応酬をしています。この作品は、沈遼が友人の病状を尋ね、あわせて薬の処方を記した書簡で、その料紙には、日本の「久能寺経」に用いられる料紙と同様の、波濤文を表した精緻な文様が施されているのです。北宋の中期、加工紙の技術は極めて高い水準に達していたと考えられます。蘇軾や黄庭堅が用いた紙にも、精緻で華美な遺品はありますが、本作はひときわ鮮やかな波濤紋に沈遼の清らかな筆致を伝える作で、宋時代の造紙工芸の一斑をうかがわせるとともに、当時日本に舶載された唐紙と同一文様の作例としてきわめて貴重なものです。

動止帖　沈遼筆（部分）
宋時代　上海博物館蔵

国宝　法華経化城喩品（久能寺経）（部分）
平安時代　12世紀　鉄舟寺蔵
（一部期間のみの展示となります。
詳しい展示期間については、改めてお問い合わせ下さい）

「書の至宝」展イメージソングはRin'(リン)が担当します!

詳細は決まり次第、「書の至宝」展ホームページ(http://www.asahi.com/sho/)でお知らせします。

Rin'(リン)プロフィール

グループ名は、英語の「Ring(輪)」と和楽の「和」をかけて、音楽を通じて「輪」を作っていきたいという理由から命名。昨年の「第92回ワシントン桜祭り」に日本人アーティストとして唯一出演し、日本武道館にて行なわれた「ジョン・レノン スーパー・ライブ」出演などを経て、第19回日本ゴールドディスク大賞「ニュー・アーティスト・オブ・ザ・イヤー」を受賞。今年6月には日本の最高峰アーティストが多数出演する「クロスオーバー・ジャパン2005」でオープニングアクトを務め、愛知万博でも演奏を行なった。

Mana(吉永真奈)

箏・三絃
東京都出身

5歳の頃より生田流箏曲を安藤政輝氏に師事
2001年3月東京芸術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻卒業
宮城会、輝箏会、森の会、士奏会に所属
宮城会教師

Tomoca(長須与佳)

琵琶・尺八
茨城県出身

10歳より琴古流尺八と薩摩琵琶を始める
その後、琴古流尺八を人間国宝である故山口五郎氏と、松山龍盟氏に師事
薩摩琵琶を坂田美子氏に師事
2001年3月東京芸術大学音楽学部邦楽科尺八専攻卒業

Chie(新井智恵)

三絃・十七絃
東京都出身

6歳より箏を始める
矢崎明子氏・林早苗氏の両師に師事
2001年3月東京芸術大学音楽学部邦楽科箏曲生田流卒業
2002年3月NHK邦楽技能者育成会第47期卒業
宮城会、森の会、若水会、木々の会、絹の会、士奏会に所属
宮城会教師

リリース情報

最新シングル「夢花火」
フジテレビ系『奇跡体験!アンビリバボー』エンディングテーマ
AVCD-30793　¥1,050(税込)

収録曲
1.夢花火 -Rin' Three pieces-
2.夢花火
3.Flashback -Rin' Version-
劇場版「仮面ライダー響鬼と7人の戦鬼」主題歌
4.夢花火 -Instrumental-

書の至宝
Twin Peaks The Finest of Chinese and Japanese Calligraphy 日本と中国

ファクス返信票

特別展「書の至宝－日本と中国」写真借用申込書

FAX
03-3664-3833
「書の至宝」展広報事務局 行き

1 本展を記事・番組でご掲載いただけるでしょうか？

☐ はい　☐ いいえ　☐ 検討中（　月　日ごろ確定）

2 ご紹介いただける場合、いつ頃の発売／配付・放送で、どのような内容になりますか？

月号（　月　日発行）、　月　日放送　未定／　月　日ころに決定する

掲載面（ページ）内容・番組名などをご記入ください。

〔発行部数／　放送エリア／　〕

3 ご紹介いただける場合、写真は使用されますか？

☐ はい

報道資料中、貸し出し写真番号の付いている作品より直接お取り込みください。
広報用に画像データおよび写真（カラー紙焼き・ポジ）をご用意しております。
ご希望の場合は、下記にご記入の上、ファクスにてお申込みください。

貸し出し写真番号

写真の種類　☐ データ　☐ カラー紙焼き　☐ カラーポジ　写真到着希望日　月　日

※画像データのメール送付をご希望の場合はE-mailアドレスもご記入ください。
※貸し出し写真1はweb掲載不可です。

E-mailアドレス

☐ いいえ　（写真は使用せず、文字掲載のみ）

4 ご紹介いただける場合、招待券プレゼントを希望されますか？
（5組・10枚まで。写真付きでご紹介いただける場合は、10組分までご提供いたします）

☐ はい　ご希望枚数　枚（　月　日までに必要）　☐ いいえ

貴社名	媒体名	ご担当者名
住　所　〔〒　-　〕		
TEL　（　）	FAX　（　）	
E-mail アドレス		

■掲載記事などにつきまして、情報確認のためゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までファクスにてお送りください。
■提供する写真は本展の広報目的に限って、1回のみ使用いただけます。
■お手数ですが、ご掲載頂いた場合は掲載紙・誌、または録画媒体等を広報事務局あてにお送りくださいますよう、お願い申し上げます。